

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-31581

(P2010-31581A)

(43) 公開日 平成22年2月12日(2010.2.12)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
E O 4 B 1/66 (2006.01) E O 4 B 1/66 Z 2 E O O 1

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2008-196324 (P2008-196324)	(71) 出願人	397025107
(22) 出願日	平成20年7月30日 (2008.7.30)		日本住環境株式会社
			東京都港区芝2-11-16
		(74) 代理人	100081558
			弁理士 齋藤 晴男
		(74) 代理人	100154287
			弁理士 齋藤 貴広
		(72) 発明者	大久保 明朗
			東京都港区芝大門2-11-16 日本住
			環境株式会社内
		Fターム(参考)	2E001 DA01 FA01 FA02 FA32 GA13
			GA17 GA24 GA53 GA76 HD11
			LA16 MA01 MA03 MA04

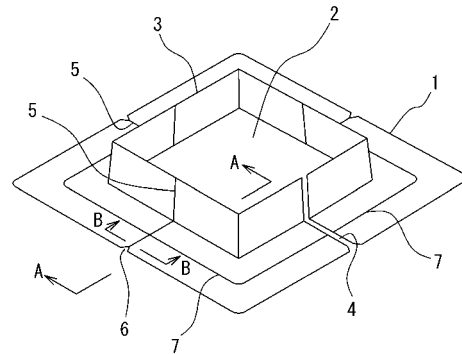
(54) 【発明の名称】 気密施工補助部材

(57) 【要約】

【課題】柱等の断面正方形の建材だけでなく、梁のような断面長方形の建材、あるいは、窓コーナー等における気密施工等に用いることができ、気密化施工を簡易迅速に行うことが可能な、汎用性のある気密施工補助部材を提供することを課題とする。

【解決手段】中央開口2を有するフランジ部1と中央開口2に沿って立上がる立上がり壁3とから成り、フランジ部1の外端縁から立上がり壁3の上端に達する切離部4を1箇所設け、切離部4から等角度置きに、フランジ部1の外端縁から立上がり壁3の上端にまで延びる凸条5を形成して成る気密施工補助部材である。フランジ部1及び中央開口2は正方形形状とされ、凸条5の一端又は両端に切込みを助けるVカット6が形成される。フランジ部1に、テープの貼り位置を示すテープガイドライン7が形成される。テープガイドライン7は凸条5とすることができる。また、立上がり壁3は、上方が窄まるテーパ面とされる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

中央開口を有するフランジ部と、前記中央開口に沿って立上がる立上がり壁とから成り、前記フランジ部の外端縁から前記立上がり壁の上端に達する切離部を 1 個所設け、前記切離部から等角度置きに、前記フランジ部の外端縁から上記立上がり壁の上端にまで延びる凸条を形成して成る気密施工補助部材。

【請求項 2】

前記フランジ部及び前記中央開口を正形状とした請求項 1 に記載の気密施工補助部材。

【請求項 3】

前記凸条の一端又は両端に V カットを形成した請求項 1 又は 2 に記載の気密施工補助部材。

【請求項 4】

前記フランジ部に、テープの貼り位置を示すテープガイドラインを形成した請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の気密施工補助部材。

【請求項 5】

前記テープガイドラインは凸条である請求項 4 に記載の気密施工補助部材。

【請求項 6】

前記立上がり壁を、上方が窄まるテーパ面とした請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の気密施工補助部材。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は気密施工補助部材、より詳細には、柱廻りの気密化施工、あるいは、窓コーナ等における気密化施工に際して用いられる気密施工補助部材に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

天井断熱及び床断熱においては、柱の上下（天井部分と床部分とにおける柱廻り）における気密処理が重要なポイントとなる。即ち、間仕切壁下端の柱部分は、柱が防湿シートを貫通するために隙間がしやすいので、十分な気密化施工が必要となる。

【0003】

従来、上記気密化施工として、例えば図 13 に示される方法が行われている。この方法においては、正方形の中央開口を有する正方形のフランジ部 51 と、中央開口の縁に沿って垂直に立上がる立上がり壁 53 とから成る気密施工補助部材が用いられる。

【0004】

この補助部材は、フランジ部 51 の一辺中間部外端縁から立上がり壁 53 の上端縁に至る切離部 54 が設けられていて、そこから開くことで、柱 55 の端部を取り巻いて装着し得るようになっている。

【0005】

このようにして柱 55 に装着した後、先ず切離部 54 に沿って固定用テープ 56 を長めに貼り、次いで、柱 55 に当接している立上がり壁 53 と柱 55 の側面とに跨らせて固定用テープ 56 で止め、最後に、フランジ部 51 の周囲に固定用テープ 56 を井桁状に貼着して作業終了となる。

【0006】

【特許文献 1】 特開 2001 - 207559 号公報

【特許文献 2】 特許第 2693123 号公報

【特許文献 3】 特開平 11 - 20071 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

10

20

30

40

50

上記従来の気密施工補助部材の場合、その中央開口 5 2 の径が柱 5 5 の径と常に一致している場合には問題ないが、それが異なる場合、あるいは、梁のように長方形の建材の場合には用いることができない。即ち、従来の気密施工補助部材は用途が限られていて、汎用性がない。

【 0 0 0 8 】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、柱等の断面正方形の建材だけでなく、梁のような断面長方形の建材、あるいは、窓コーナー等における気密施工等に用いることができ、気密化施工を簡易迅速に行うことが可能な、汎用性のある気密施工補助部材を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

10

【 0 0 0 9 】

上記課題を解決するための請求項 1 に記載の発明は、中央開口を有するフランジ部と、前記中央開口に沿って立上がる立上がり壁とから成り、前記フランジ部の外端縁から前記立上がり壁の上端に達する切離部を 1 個所設け、前記切離部から等角度置きに、前記フランジ部の外端縁から上記立上がり壁の上端にまで延びる凸条を形成して成る気密施工補助部材である。

【 0 0 1 0 】

好ましくは、前記フランジ部及び前記中央開口は正形状とし、前記凸条の一端又は両端に切込みを助ける V カットを形成する。また、前記フランジ部に、テープの貼り位置を示すテープガイドラインを形成することが好ましく、その場合、前記テープガイドラインは凸条とすることができる。更に、前記立上がり壁を、上方が窄まるテーパ面とすることが好ましい。

20

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

本発明に係る気密施工補助部材は上記構成であるので、その中央開口に対応するサイズの柱についてはもちろん、部材全体を二分割又は四分割することで、より大径の柱や断面長方形の梁等について使用可能であり、更に、四分割して窓コーナー等の出隅部位等についても使用可能であり、気密施工補助部材を必要とする種々の個所に対応させて使用することができる効果がある。

【 0 0 1 2 】

30

また、凸条を設けることで、現場での本部材分割作業が容易となり、更に、テープガイドラインを設けることで、固定用テープの貼着位置の目安とすることができ、テープ貼り作業を迅速且つ的確に行ない得る効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 3 】

本発明に係る気密施工補助部材の構成及びその使用法を、添付図面に依拠して説明する。図 1 は、本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態を示す斜視図で、本部材は、中央開口 2 を有するフランジ部 1 と、中央開口 2 に沿って、例えば、30 mm 程立上がる立上がり壁 3 とから成る。通例、フランジ部 1 と立上がり壁 3 は、厚さ 0 . 3 mm 程度のポリプロピレンシートで一体に形成される。

40

【 0 0 1 4 】

通例、フランジ部 1 は、図示したような正方形とされるが、それに限られる訳ではなく、円形や六角形等であってもよい。また、中央開口 2 は、その主な使用対象である四角柱に対応する大きさの正形状とされるが、例えば円柱用とする場合は円形開口とされる。四角柱としては 3 . 5 寸角 (1 0 5 mm 角) のものが多いので、多くの場合中央開口 2 もそれに対応するサイズとされる。

【 0 0 1 5 】

フランジ部 1 の外端縁から立上がり壁 3 の上端にかけて、1 本の切離線を入れて、切離部 4 が形成され、フランジ部 1 と立上がり壁 3 は、それぞれその部分において分離される。また、切離部 4 から等角度置き (通例 9 0 度置き) に、フランジ部 1 の外端縁から立上

50

がり壁 3 の上端にまで延びる凸条（裏側から見れば溝）5 が形成される。

【0016】

凸条 5 は、本部材の現場でのカッティング作業に便ならしめるために設けられるものである。即ち、本部材は、後述するように用途によっては分割して使用することになるもので、その分割は、現場においてカッティングすべきラインに沿って定規を当てがい、カッターでカットすることによって行うことになる。そこで、予めカッティングラインを指示する凸条 5 を形成し、その裏側の溝に沿ってカッターを移動させることで、定規を用いることなく簡単にカッティング作業を行うことができるようにしたものである。

【0017】

好ましくは、凸条 5 の一端又は両端（図示した例では、フランジ部 1 の外方端部のみ）に、V カット 6 が形成される。この V カット 6 は、カッティング頭初の凸条（溝）5 に対するカッターの喰い込みを容易にするために設けられるものである。

【0018】

更に好ましくは、フランジ部 1 に、固定用テープ 10 を貼着する位置を示すためのテープガイドライン 7 が形成される。テープガイドライン 7 は凸条 5 と同様又はそれよりも高い凸条であり、通常、正形状に形成される。このテープガイドライン 7 は凸条ではなく、単なる直線表示とすることもあるが、凸条とした場合は補強リブの役割をも果たすので、より好ましいと言える。

【0019】

立上がり壁 3 は、上方が窄まるテーパ面とすることが好ましい。そのテーパ度は僅かでもよく、例えば、立上がり壁 3 の高さが 30 mm の場合、下辺を 108 mm とし、上辺を 105 mm とする程度でよい。このように立上がり壁 3 をテーパ面とすることにより、柱 11 に対する密着度を高めることができる。

【0020】

上記構成の本部材の使用方法について説明する。まず、図 4 乃至図 6 に示される使用方法について説明する。この使用例は、柱 11 の天井部及び床面部における柱廻りに気密層を形成するために用いる例で、この場合は先ず、フランジ部 1 及び立上がり壁 3 を切離部 4 のところから開き、柱 11 を中央開口 2 内に収めて、立上がり壁 3 を柱 11 の側面にあてがう（図 4）。

【0021】

次いで、切離部 4 の合わせ目を完全に覆うようにして、固定用テープ 10 を貼る（図 5）。固定用テープ 10 は、柱 11 の側面から切離部 4 を経て、床面（天井面）にまで延びるように長めに貼る。そして、幅方向一半部が立上がり壁 3 上に接し、他半部が柱 11 の側面に接するようにして固定用テープ 10 を巻き、最後に各テープガイドライン 7 の外側に沿って固定用テープ 10 を、両端がフランジ部 1 から出て床面（天井面）に達するようにして井桁状に貼ることで、本部材の固定完了となる（図 6）。

【0022】

次に、短辺の長さが中央開口 2 に合致する断面長方形の梁 12 に用いる場合（図 7 乃至図 9）の使用方法について説明する。この場合は、切離部 4 の反対側の凸条 5 をカットすることで、本部材を二分する（図 7）。そして、各分割片を梁 12 の上面端縁及び下面端縁にあてがい（図 8）、それぞれ、立上がり壁 3 と梁 12 に跨るようにして固定用テープ 10 を貼り、次いで、テープガイドライン 7 の外側に沿ってフランジ部 1 壁面に跨るようにして固定用テープ 10 を貼り（図 9）、本部材の固定完了となる。

【0023】

更に、図 10 乃至図 12 に示される使用方法について説明する。この使用例は、本部材を各凸条 5 をカットすることで 4 等分し、中央開口 2 よりも大径の柱や窓コーナー等の出隅部位に使用する例である。この場合、切り分けられた部材を、大径の柱の各コーナーに当てがい、図 9 に示す例に準じて固定用テープ 10 で固定する。また、切り分けられた部材を裏返し、立上がり壁 3 で構成されるコーナー部を窓のコーナーに当てがい（図 11）、フランジ部 1 をそれぞれテープ止めする（図 12）。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 4 】

このように、本発明に係る気密施工補助部材は多用途に使用でき、且つ、気密施工を迅速且つ的確に行うことを可能ならしめるものである。

【 0 0 2 5 】

この発明をある程度詳細にその最も好ましい実施形態について説明してきたが、この発明の精神と範囲に反することなしに広範に異なる実施形態を構成することができることは明白なので、この発明は添付請求の範囲において限定した以外はその特定の実施形態に制約されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 6 】

10

【図 1】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の斜視図である。

【図 2】図 1 における A - A 線拡大断面図である。

【図 3】図 1 における B - B 線拡大断面図である。

【図 4】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の使用方法的第 1 工程を示す図である。

【図 5】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の使用方法的第 2 工程を示す図である。

【図 6】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の使用方法的第 3 工程を示す図である。

【図 7】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の他の使用方法的第 1 工程図を示す図である。

20

【図 8】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の他の使用方法的第 2 工程図を示す図である。

【図 9】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の他の使用方法的第 3 工程図を示す図である。

【図 10】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の更に他の使用方法的第 1 工程図を示す図である。

【図 11】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の更に他の使用方法的第 2 工程図を示す図である。

【図 12】本発明に係る気密施工補助部材の一実施形態の更に他の使用方法的第 3 工程図を示す図である。

30

【図 13】従来の気密施工補助部材の構成及び使用方法を示す斜視図である。

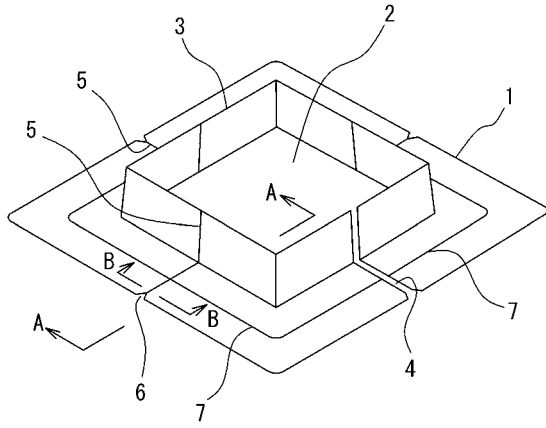
【符号の説明】

【 0 0 2 7 】

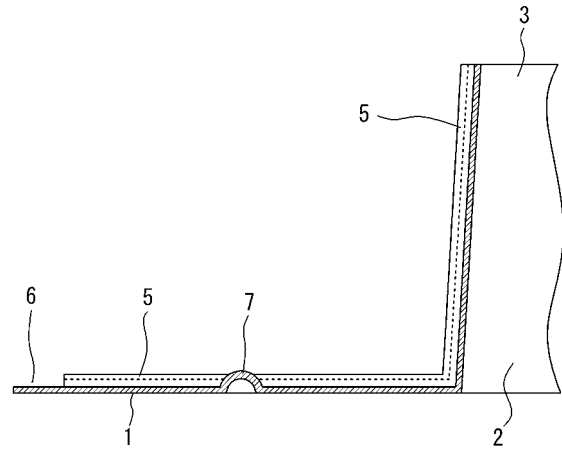
- 1 フランジ部
- 2 中央開口
- 3 立上がり壁
- 4 切離部
- 5 凸条
- 6 Vカット
- 7 テープガイドライン
- 10 固定用テープ
- 11 柱

40

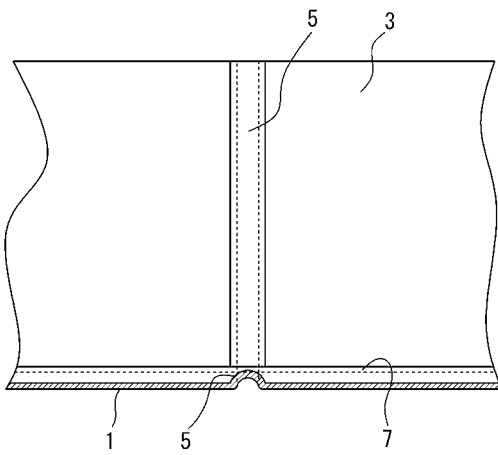
【図 1】



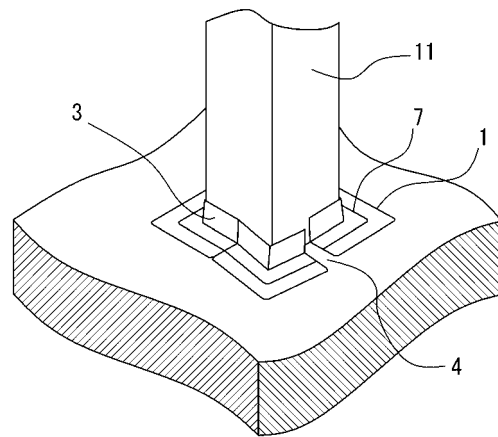
【図 2】



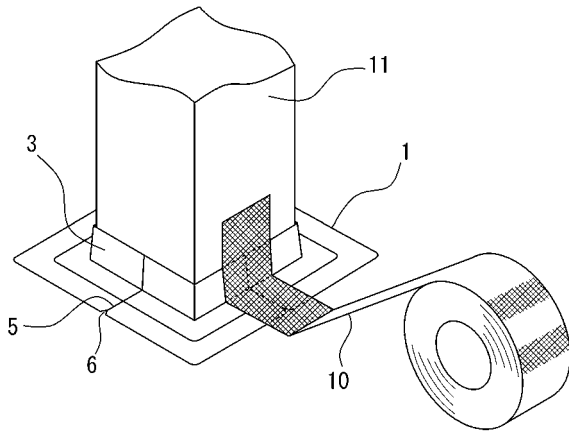
【図 3】



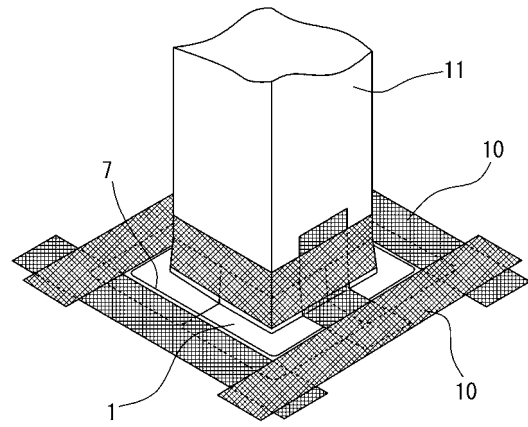
【図 4】



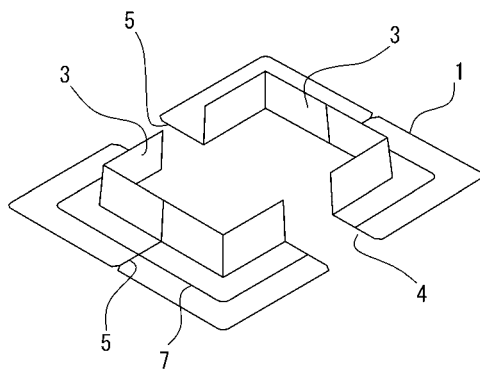
【図 5】



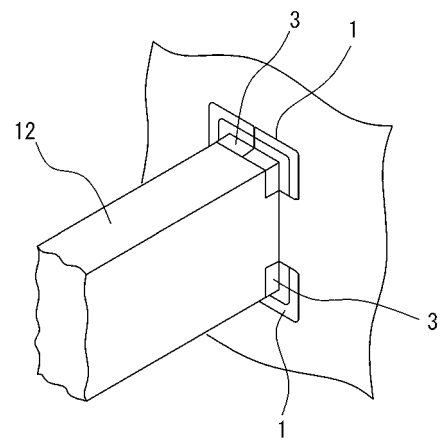
【図 6】



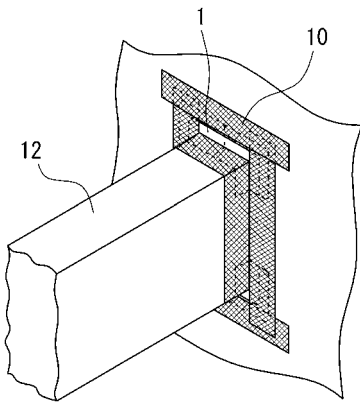
【図 7】



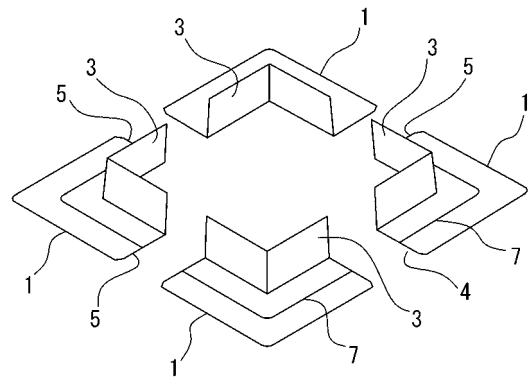
【図 8】



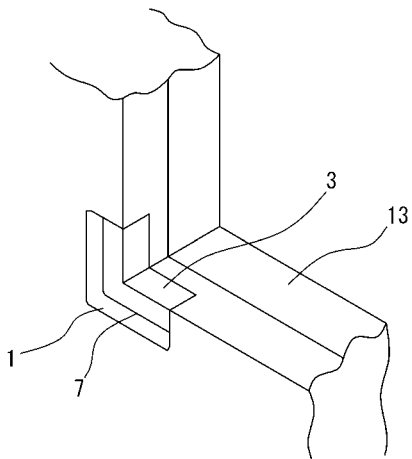
【図 9】



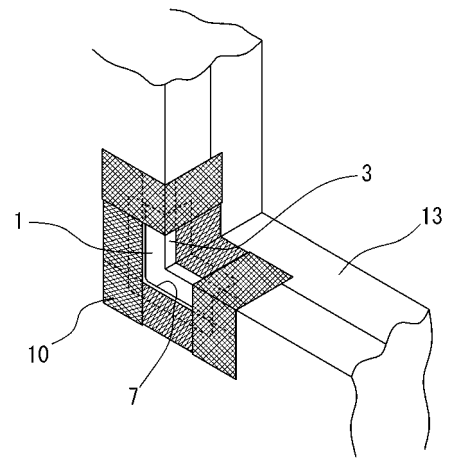
【図 10】



【図 11】



【図 12】



【図 13】

